

追手門学院大学

『英語文化学会論集』第28号 抜刷

2019年3月20日 発行

「新入生演習」における MReader を使用した 英語多読の実践報告

原 めぐみ

「新入生演習」における MReader を使用した 英語多読の実践報告

原 めぐみ

1. はじめに

文部科学省は大学教育の質的転換を図るために、3つのポリシーの策定と運用の指針となる『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）、及び『入学受入れの方針』（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン」を発表した。文部科学省の調査によれば、平成25年度時点で、3つのポリシーはいずれも90%以上の大学で策定済みとなっているが、形式的なものにとどまっており、実質的な運用は進んでいないと捉えられている。上記のガイドラインのカリキュラム・ポリシー欄で初年次教育について以下のように言及されている。

卒業認定・学位授与に求められる体系的な教育課程の構築に向けて、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の様々な観点から検討を行うこと。特に、初年次教育については、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする観点から充実を図ること。

濱名（2006）によると初年次教育は、「高校からの円滑な移行をはかり、学習及び人格的な成長の実現にむけて、大学での学習と生活を成功させるべく、総合的につくられた教育プログラム」と定義されている。

本学の初年次教育は「新入生演習」として入学時の春学期に開講されており、全学部において専任教員が担当している。2017年度から全学部での内容共通化が強化され、学部内での担当者間による毎授業時間後の情報交換などが必須事項となり、「新入生演習」の改革が行われている途中である。

2. 問題と目的

全学共通化された「新入生演習」において、国際教養学科独自の教育内容を展開できるコンテンツが必要となった。そこで、多様な英語力を有する学生が専門領域へ容易に踏み出せるように、MReaderを使用した英語多読を授業外課題として導入することにした。国際教養学科現カリキュラムの1年は週に5回英語の必修授業がある。その内訳はReading（週1）、Writing（週1）、TOEIC対策（週2）、会話（週1）である。Readingの授業で使用しているテキストブックの1つのパッセージが200-400語程度であり、年間16パッセージしかないため、圧倒的に英文を読む量が不足している。本研究の目的はMReader導入に係わる問題点や初年度の学生の到達度を明らかに

し、次年度の新入生演習におけるMReaderを使用した英語多読導入への提案を行うことである。

3. 研究の背景

濱名（2006）は大学初年次教育の内容として以下の7つをあげている。

- ①大学生活への適応（大学生活、学習、対人関係等）
- ②大学で必要な学習技術の獲得（読み、書き、批判的思考力、調査、タイム・マネジメント）
- ③当該大学への適応
- ④自己分析
- ⑤ライフプラン・キャリアプランづくりへの導入
- ⑥学習目標・学習動機の獲得
- ⑦専門領域への導入

「新入生演習」にMReaderを使用した英語多読を導入することによって、上記の7つのうち4つの内容 ②大学で必要な学習技術の獲得（読み、思考力、タイム・マネジメント）③当該大学への適応 ⑥学習目標・学習動機の獲得 ⑦専門領域への導入を網羅できると考えた。英語多読では対象の本を図書館あるいはE-CO（English Café at Otemon）から借りる必要があり、大学施設の利用に慣れるということが③当該大学への適応にあてはまる。自分の興味やレベルに合わせた本を借り、授業外の時間を利用し個々のペースで本を読むことは、②大学で必要な学習技術の獲得（読み、思考力、タイム・マネジメント）や⑥学習目標・学習動機の獲得に繋がる。

英語多読とは文字通り辞書などを余り使わず、簡単な本を大まかな筋を理解しながらたくさん読むことであり、国際教養学科の学びの基礎となる英語という⑦専門領域への導入という点で最適である。英語多読は語彙力や読解力が向上するだけではなく、言語処理力が速まるためリスニングやTOEICスコアアップにも効果があることは多くの研究で明らかになっている。

英語多読指導に不可欠な3大ポイントを高瀬（2010）は、1 授業内読書 2 最初はやさしい本から 3 最少の読書後課題としている。3の最少の読書後課題とは、読書後に要約や感想をレポートで書かせるのではなく、読書時間を増やすために短時間で行える課題を与えることを指す。そこで簡単なオンライン上の登録のみで無料で利用できるMReaderを使用することにした。MReaderとは読書後に読んだ本の内容理解に関するクイズをオンライン上で受け、一定以上の問題を正答し合格すれば、その本の読書語数が加算されていくというシステムである。教員もログインするだけで、各学生の読書語数、読んだ本のタイトルがわかり、評価も容易に行うことができる。英語多読やMReaderに関する研究は、英語授業と関連したものや、E-COのような学内の外国語教育センターが行った研究が多いが、初年次教育の授業で実践されたものはあまり見当たらない。そこで、初年次教育における英語多読の問題点や有用性の検証を行うことにした。

4. 研究の方法

「新入生演習」で学生が回答した質問紙調査およびMReaderに記録された読書語数と本の冊数、さらに学生が春学期終了時に受験したTOEICスコア結果をデータとして収集し分析する。

4. 1 研究の流れ

「新入生演習」におけるMReaderを使用した英語多読を授業外課題として課することの有用性を検証するために、授業回15回中の14回目の合同授業（19名×8クラス）で、自由記述回答を含む質問紙調査用紙を配付し、直接紙に記入する方法でデータを収集した。その質問紙調査を資料1に示す。質問紙調査の結果と共に、MReaderに記録された読書語数と本の冊数、春学期終了時のTOEICのスコア結果を使用し、学生の読書語数とTOEICスコアの関係性を分析した。

4. 2 調査対象

調査の対象とした学生は、2018年度に国際教養学科に属する1年151名の学生である。

4. 3 新入生演習の授業外課題

昨年度（2017年度）の「新入生演習」の授業外課題は、4冊の新書を読み読書ノートを提出する課題であったが、今年度からは国際教養学科の特性を活かし、英語多読を開始することにした。昨年の読書ノート課題を1冊にし、授業外課題として20%（読書ノート1回5%、MReaderによる到達度15%）を評価に組み入れた。学年全体の共通した目標読書語数などは設けず、各クラス教員の裁量により評価が行われた。

4. 4 導入および実践

初回の「新入生演習」合同授業において、MReader登録方法（資料2）に沿って説明を行った。登録方法の動画を学科教員に作成してもらい、そのQRコードを資料に付け加えた。その際に多読の効果やどのような本を借りれば良いのかを実際の本を提示しながら説明した。授業中の多読指導は8クラス中2クラスのみで行われ、残りの6クラスは授業外課題としてのみ扱った。Xクラスでは、毎回の授業のはじめに読んだ本について1分間のプレゼンテーションをペアで行い、最後の授業では、トーナメント方式でプレゼンテーションの優勝者を決めた。筆者のクラスでは、キャンパスツアーで図書館に行った際におすすめの多読本を紹介し、毎回の授業でクラス内上位者を発表したり、今読んでいる多読本についてグループに紹介する時間を授業中に設けた。

5. 結果と考察

質問紙調査は計124の回答があり、2018年7月のTOEICは125名が受験した。質問紙調査の分析は、選択式の回答の度数分布から分析した。TOEICスコアは平均値や読書語数とTOEICスコアの相関関係から分析し、一番印象に残った本のタイトルは順位付けを行い、印象に残った本を選んだ理由に関する自由記述回答は、語の出現回数と関係性から分析を行った。

5. 1 読書語数の結果

5. 1. 1 読書語数別学生数

春学期中に学生が読んだ読書語数別のグラフを図1示す。1001-4999語が42名と一番多く全体の27.8%を占めるが、読書習慣がついたとは言い難い語数である。読書語数が0の学生が45名おり、そのうち7名はMReaderの登録をしておらず、25名は登録したが本を読んでいない。13名は1冊あるいは2冊読んだが、MReaderのクイズに合格出来ず語数にカウントされていない。「クイズを間違えたらもうその本の（クイズ）ができなくなるのがよくわからない」という学生の記述があったが、教員側で不合格のクイズを学生にRetakeさせることが出来る機能がMReaderにはあり、来年度は「学生1人につき学期中に3回までRetakeすることができる」のようなルールを作れば学生の動機づけになるかもしれない。

5. 1. 2 平均読書語数と冊数

読書語数が0の学生32名を除いた106名の平均読書語数と冊数を表1に示す。平均語数は11174語、

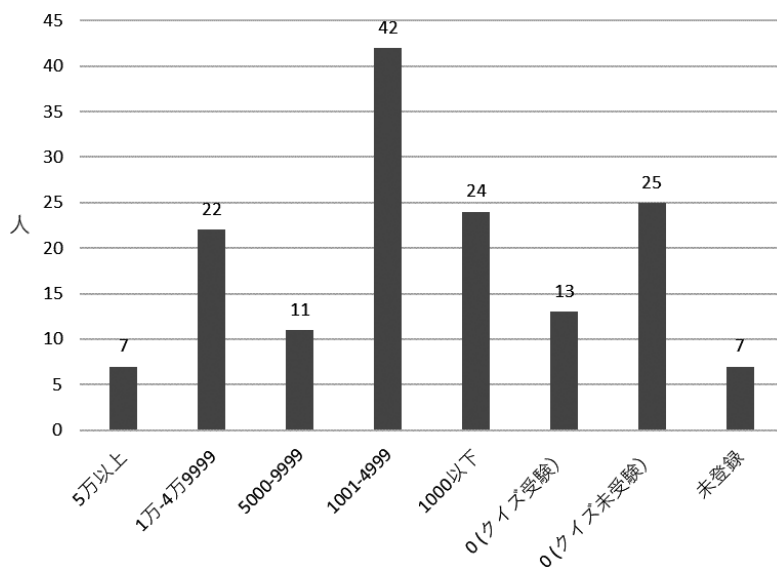


図1：読書語数別学生数

読んだ本の冊数は6冊となっており、1ヶ月に1,2冊読んだことがわかる。英語力向上のためにはこの語数では少なすぎるため、来年度の目標語数を設定する際はこれ以上の語数にすべきである。図1のボリューム層は1001-4999語であったが平均値が1万を超えていることから、少数の上位層がその他の学生に比べて一層多く読んでいる事がわかる。次に上位学生のデータを分析する。

表1：読書語数・冊数平均値

	n	平均語数	平均冊数
2018年7月	106	11174	6.0

5. 2 上位学生の読書語数とTOEICスコア

5万語以上読んだ上位7名の学生のTOEICスコア、読書語数、冊数、1冊辺りの平均語数を表2に示す。TOEICスコアが400点以上の英語力を持つ学生が、読書語数においても上位6位に位置していた。7位の学生だけは学年平均のTOEICスコア354.6（表3）に達していないが、記述に「E-COによく行くのでその時に本を借りる」と書いており、英語学修全般に対して意欲が高い学生であることがわかる。

上位の学生はQ4「英語の本を読む習慣がついた」Q5「これからもMReaderを続けたいですか」という問いに好意的に回答しており、その理由として「本を読むのが楽しくなったから」と「英語力をつけたいから」のどちらかの理由を選んでいる。このことから、読むことが楽しくなるような本選びや、多読がどのように英語力向上に結びつくかを「新入生演習」の初回授業だけでなく、Reading/Writingの授業とも連動させ学生に計画的な多読指導を行うことが読書語数の増加に影響すると思われる。

表2：5万語以上読了した学生のTOEICスコアと本の冊数

順位	TOEIC スコア	読書語数	冊数	1冊辺りの平均語数
1	580	174209	41	4249
2	660	100518	11	9138
3	590	65305	31	2107
4	485	60330	29	2080
5	405	56575	18	3143
6	520	55668	6	9278
7	340	53891	15	3593

表3：2018年7月TOEICスコア

	n	平均	標準偏差
2018年7月	125	354.6	120.9

5. 3 対象学生の読書語数とTOEICスコアの相関関係

対象学生のTOEICスコアと読書語数の相関係数をもとめると、有意な相関関係があり、その程度は.477と中程度であることがわかった。中程度の相関関係があるということは、TOEICスコア中下位層の学生が読書語数を増やすことに困難があると推察される。中下位層の学生が、積極的に多読に取り組める授業内指導を次年度の提案で述べる。

表4：TOEICスコアと読書語数の相関係数

	n	相関係数	有意確率
TOEICスコアと読書語数	125	.477	.001

5. 4 本を借りた場所と理由

Q3「主に本をどこで借りましたか」という問いに64人（54％）が図書館、55人（46％）がE-COで借りたと回答した。図書館を選んだ理由は「図書館の方が本が多いから」が最も多く、E-COを選んだ理由は、「E-COの本はレベル分けされているから」が一番多かった。新キャンパスの図書館に多読本を移動することは決定しているが、E-COの施設は新キャンパスに無いため、多読本をレベル分けして常設する場所や今までE-COが行ってきた本に関するアドバイスを提供する環境が今後も必要である。

5. 5 英語の本を読む習慣とMReaderの継続利用

Q4「英語の本を読む習慣がついた」には53人（42.7％）が肯定的に答えている。その理由は「英語力をつけたいから」が最も多く、「課題だから」「本を読むのが楽しかった」が続いた。否定的に答えたのは37人（29.87％）で、その理由は「読む時間がなかったから」が最も多かった。

Q5「これからもMReaderを続けたいですか」には60人（48.3％）が否定的に答え、肯定的な回答33人（26.7％）を上回った。続けたい理由は「英語力をつけたいから」が最も多く、続けたくない理由は「時間がないから」が多かった。これらの結果から学生が英語力をつけたいと強く望んでいるが、大学や新生活に慣れるのに忙しく、多読を行う時間を確保できなかったことがわかる。

5. 6 印象に残った本のタイトルとその理由

Q6「一番印象に残った本のタイトルとその理由について書いて下さい」という問いの回答を順位付けしたものを表5に示す。ディズニーや映画化されている本が大半を占めていることがわかる。ストーリーをあらかじめ理解している本を英語で読むことは、難易度を下げるため多読には効果的である。次年度の初回説明の際にこれらの本を例として見せることが、学生が本を選択する際の目安になると思われる。一番印象に残った本を選んだ理由の自由記述回答部分に出現する単語の頻度を求めるため、テキストマイニング用ソフト「KH Coder」を利用した。その頻度順は表6の通りである。頻度だけでなく、抽出語同士のつながりを可視化するために「KH Coder」の「共起

ネットワーク」機能を利用し表したものを図2に示す。頻度の多い語は円が大きくなり、円を結ぶ線の濃さは共起関係の強さを表している。図2から読み取れることは、まず図の中心に位置し最も大きく描かれているのは「内容」と「読む」である。「内容」と関係が強いのは「面白い」であり、「読む」と関係が強いのは「知る」であり、「知る」は「面白い」にも繋がっている。これらに着目すると、読みながら内容を理解できれば面白いと感じ、新しい事柄を知ることができるということである。「好き」という頻出語からは、今まで馴染みのあった好きなタイトルの本を選んだことが分かる。英語で本を読むことが初めてという学生も多く存在し、物語のジャンルよりも理解できるかどうかを優先し本を選んでいったことが推察される。

表5：印象に残った本のタイトル順位

順位	本のタイトル	人	語数
1	Toy Story	4	229
	Toy Story 2	1	1736
	Toy Story 3	1	1165
2	Finding Nemo	4	77
3	Kung Fu Panda	3	842
3	Little Mermaid	3	257
3	Peter Pan	3	119
4	The Dark Knight	2	10345
4	Cars	2	3304
4	Shaun the Sheep	2	1727
4	Lion King	2	1149
4	The Bully	2	852
4	Bambi	2	264
4	Winnie the Pooh and the Honey Tree	2	128

表6：印象に残った本の理由を記述した語の出現回数

	抽出語	出現回数
1	内容	23
2	読む	22
3	好き	8
3	知る	8
3	面白い	8

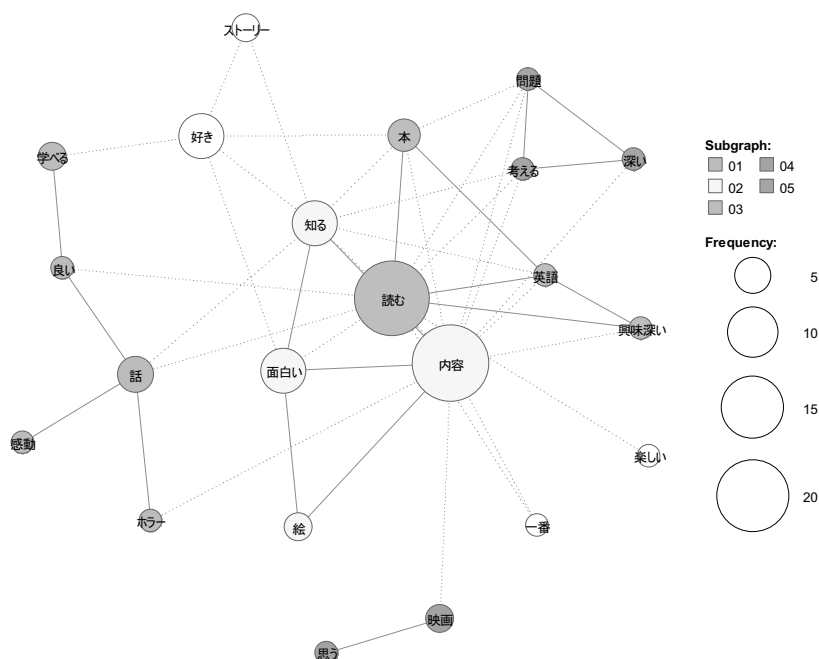


図2：印象に残った本を選んだ理由

5. 7 次年度への提案

5. 7. 1 MReader登録についての問題点

「MReaderの登録ができない」とE-COや筆者の研究室に質問に来た学生が多くいたが、ほとんどが大文字小文字の間違いなど単純なミスが多かった。登録用の動画も用意しており、登録自体は難しいわけではない。自分の学籍番号では登録できない学生が数名いたため、200番以上の誰も使用していない番号で登録するように指示をした。今年度は未登録7名を含む45名の読書語数が0であったが、筆者の新入生演習では毎回の授業でクラス内順位と読書語数が0の学生を発表するだけで、結果的にクラス内で読書語数が0の学生はいなくなった。

5. 7. 2 授業内指導

Xクラスでは、授業内で毎週読んだ本についてペアで発表し、授業最終回ではトーナメント式で優勝者を決めた。その結果、Xクラスの読書語数の合計は8クラスの中で一番多く、効果的な指導方法であったと言える。「新入生演習」は授業内容が統一されており、学科全体のプレゼンテーションコンテストに向け準備をする必要があるため、英語多読にかかる時間は十分にはない。しかし、毎回の授業においてペアで読んだ本に関する発表を行う活動は、1人1分であるため2分～3分で出来るため導入しやすい。どの本を選んでいいかわからないTOEICスコアが中下位層の学生にとっても、他の学生が読んだ本について知ることができる。学生は毎週違う本について話す必要

があり、本を借りて読んで発表するという習慣付けになると思われる。さらに、プレゼンテーションコンテストのように多読においても各クラスの代表を決め合同授業でビブリオバトルのようなコンテストを行えば、学生の多読に対する意識が高まるとと思われる。

5. 7. 3 評価方法

今年度は、各教員の裁量により読書語数に応じた評価が行われた。学生に目標語数を示していなかったため、どのぐらいのペースで何冊読めばいいかわからず、数冊のみ読んで終わってしまった学生もいたと思われる。来年度は全員が3万語読破を目指して多読を行うことを提案する。少し目標は高いかもしれないが、今年度は11人が3万語を達成しており、週に2000語×15週で3万語となる。MReaderによる到達度は全体評価の15%を占めるため15点を満点とした次年度の評価案を表7に示す。全クラス統一にすることで学年全体が同じ目標に向かい取り組める。さらに、ランキング上位学生を掲示し、毎週末に更新すれば学生に競争心も生まれ動機づけになると考える。

表7：語数別評価案

語数	点	語数	点
2000-4999	1	20000-24999	9
5000-5999	2	25000-29999	10
6000-6999	3	30000-34999	11
7000-7999	4	35000-39999	12
8000-8999	5	40000-44999	13
9000-9999	6	45000-49999	14
10000-14999	7	5万語以上	15
15000-19999	8		

6. 課 題

今後の課題は、「新入生演習」におけるMReaderを使用した英語多読の有用性を継続的に検証することである。来年度からは新キャンパスに移動するため、新キャンパスにおいて多読や多聴などの自立的学修ができる環境の整備を進めていくことも必要になってくる。

参考文献

濱名篤（2006）.「初年次教育の現状と課題～“移行”問題を中心に～」

文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/07012325/003.pdf

原めぐみ (2013). 「聴き読みによるTOEFL／TOEIC演習科目の活性化に係わる授業実践」

関西外国語大学FD委員会高等教育研究論集第3号：63-72

樋口耕一 (2015). 『社会調査のための計量テキスト分析』 ナカニシヤ出版.

文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会 (2016) 「卒業認定・学位授与の方針」
(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び
「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/__icsFiles/afielddfile/2016/04/01/1369248_01_1.pdf

高瀬敦子 (2010). 『英語多読・多聴指導マニュアル』 大修館書店.

資料1：MReader(多読)に関するアンケート調査

新入生演習課題のMReaderについて、MReaderのサイトにログインしてから回答してください。

1. 今日の時点で何冊の本を読みましたか () 冊
2. 今日の時点で総語数はいくつですか () 語
3. 主に本をどこで借りましたか

2	1
図書館	E-CO

その理由を下から一つ選んでください。

- ☐ 図書館の方が本が多いから ☐ 図書館の方が行きやすいから
- ☐ E-COの本はレベル分けされているから ☐ E-COでは本についてアドバイスをしてくれるから
- ☐ その他()

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

4. 英語の本を読む習慣がついた

その理由を下から一つ選んでください。

- ☐ 本を読むのが楽しかったから ☐ 英語力をつけたいから ☐ 課題だから ☐ 内容が難しいから
- ☐ 本を読むのが嫌いだから ☐ 借りに行く時間がなかったから ☐ 読む時間がなかったから
- ☐ 内容が面白くないから ☐ MReaderが使いづらいから
- ☐ その他()

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

5. これからもMReaderを使い続けたいですか

その理由を下から一つ選んでください。

- ☐ 本を読むのが楽しくなったから ☐ 英語力をつけたいから ☐ 課題ではないから
- ☐ 内容が難しいから ☐ 本を読むのが嫌いだから ☐ 時間がないから ☐ 内容が面白くないから
- ☐ その他()

6. 一番印象に残った本のタイトルとその理由について書いてください。

タイトル()

理由 ()

ご協力ありがとうございました。

資料 2 : MReader 登録方法

M-reader 登録方法(学生用)

手順

- ① M-reader を検索して下図のサイトにいく
- ② New users, click here to register! をクリック



- ③必要な情報を入力する

Hosted by the Extensive Reading Foundation

New user registration

Students: Get your access code from your teacher
 Teachers: Get your access code from your administrator
 Administrators: Contact mreader.org to register your school

Enter your access code here:

Family name:

Given name:

Your ID number:
 (Teachers: Choose a username)

Choose a password:

Your email address (required):

Your email address (again):

Make sure your information is correct. Then click here:

オフィスアワー・ほっとライン連絡先一覧にある自分のクラスの access code を入力

姓 (ローマ字)

名 (ローマ字)

学生番号

自分で考えたパスワード

追大の haruka メールで登録

最後にクリック

- ④表示された Login と自分のパスワードをここに記入

Login: ote-() Password()

英語多読・・・とは？

中学校レベルの英語で書かれた本から始めて、各自のレベルに合わせてレベルを上げる／維持することをしつつ
「できるだけ多くの洋書」を読むこと

多読三原則とは？

- ① 辞書を引かない
- ② 意味がわからないところは飛ばして読み進める
- ③ (内容が) 合わないと感じたら速やかに別の本に乗り換える

多読の効果は？

- ① 読む速度が早くなる
- ② 英語の長文に抵抗がなくなる
- ③ TOEIC の点数(特にリーディングのセクション)が上がる
- ④ 語彙力が増す

なぜ多読をやるのか？

- ① 英語力向上のため
- ② 新入生演習の課題だから

多読のやり方

- ① 本を図書館、あるいはE-CO で借りる
- ② 家やスクールバス、授業の合間に読む
- ③ M-reader のクイズに答える

評価

クイズに答えることで各自の多読状況が M-reader のサイトに記録される
各自の多読の成果に応じて、「新入生演習」の評価として点数化される



☆登録方法の動画は tinyurl.com/ogumreader へアクセスして下さい。

